



こたけ 議会だより

第 200 号

平成25年5月1日

■発行 小竹町議会
福岡県鞍手郡小竹町
TEL 09496-2-1967
FAX 09496-2-1140
■編集 議会広報編集委員会
■印刷 マツオ印刷株式会社



4月11日 南小学校 入学式

もくじ

- ◆ 平成25年度当初予算 2
- ◆ 平成24年度補正予算 3
- ◆ 主な議案 4
- ◆ 一般質問 5
- ◆ 意見書 8
- ◆ 議会が同意した人事 8

3月定例会

(平成25年3月7日～平成25年3月22日 16日間)

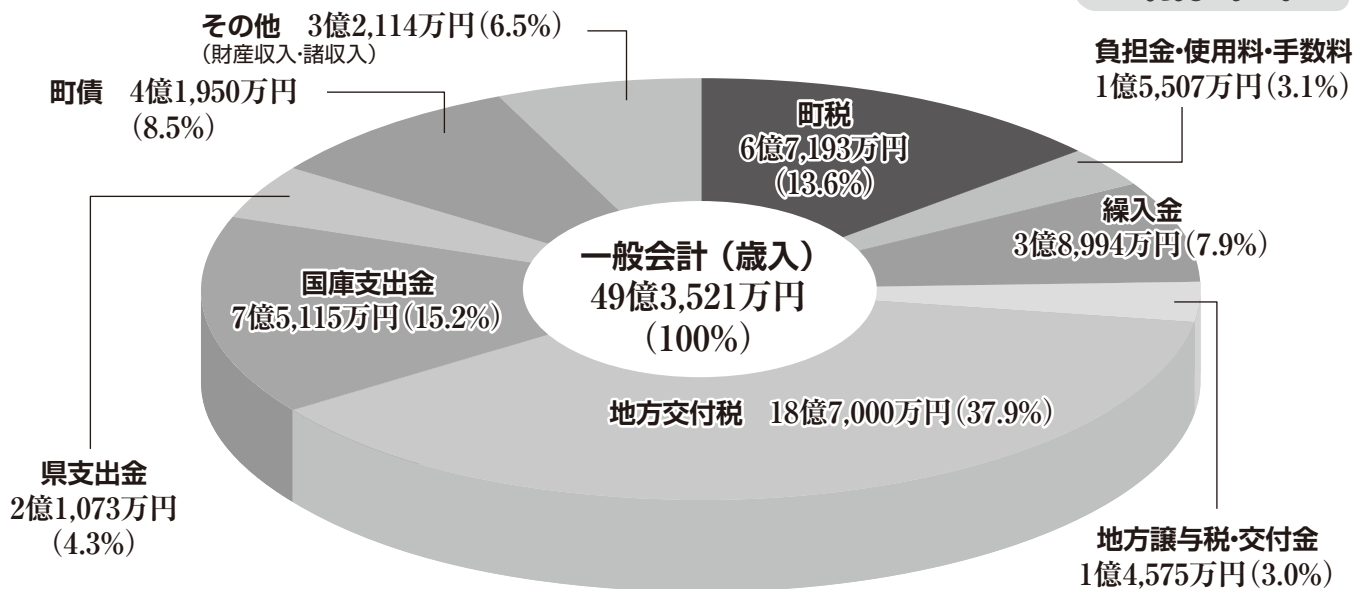


平成25年度当初予算

一般会計 …… 49億3,521万円
 特別会計 …… 27億4,446万円
 総 額 …… 76億7,967万円

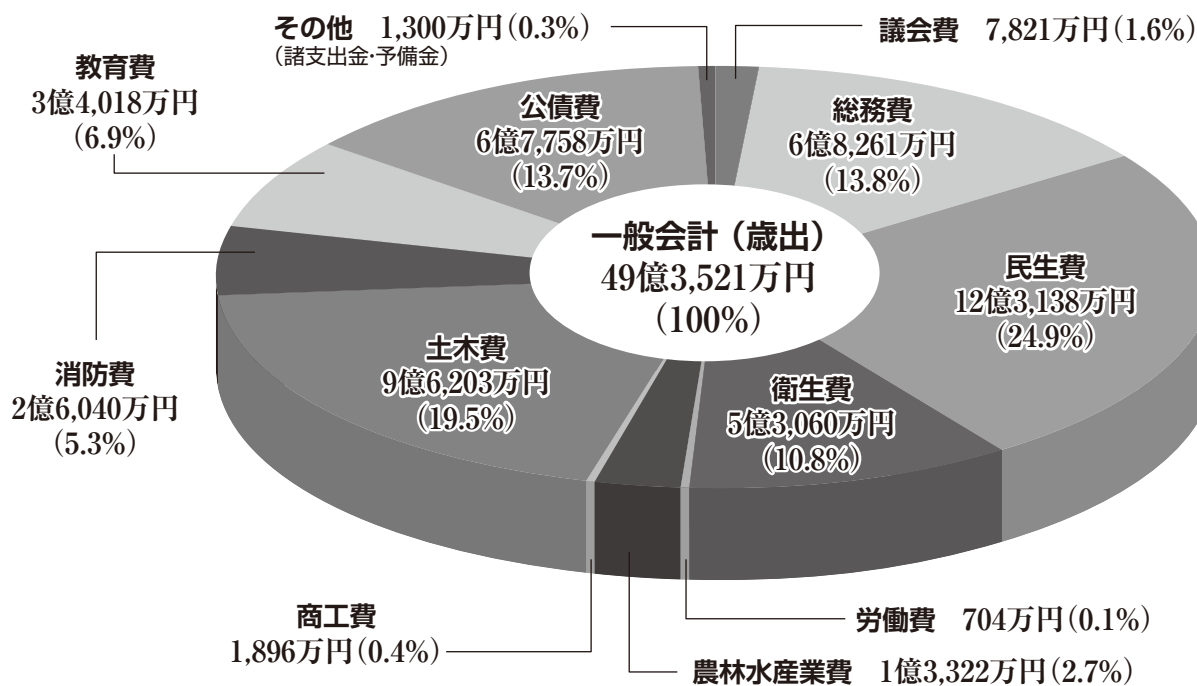


歳入



地方交付税……町が一定水準の事業を行えるよう、
 財政力に応じて国から配分されるお金
 町債……町の借金

歳出



公債費……町の借金返済金

一般会計予算

前年度比10%減

特別会計予算

前年度比4.5%増

依然として、厳しい財政運営が予想されますが、住民の福祉や健康、安全の保持、行政サービスの低下を招かぬよう、議会での慎重な審議を行っていきます。

当初予算の主な内容

- 地域協働推進
- 水田農業担い手機械導入支援
- 兵丹・宮田線道路新設
- 中島・芦北幹線道路改良
- 七福1号線道路改良
- 蛇牟田川改修
- 消防自動車購入
- 防災行政無線戸別受信機購入
- 地球温暖化対策設備設置事業補助金制度
- 中学校耐震診断業務委託

当初予算委員会の主な質疑

問 「地域の元氣臨時交付金」の使途は。

答 ・農業関係土木工事費
・庄内川改修工事負担金
・道路関係補修工事費
・七福1号線道路改良工事
・公共下水道事業繰出金

問 生ごみ処理容器（コンボスト）の補助対象個数は。

答 ダンボール製1000円を5個、プラスチック製3000円を5個、電動式コンボスト5個、電動式2万円を2個分です。



電動式コンボスト

問 投票所入場整理券ハガキの裏面に期日前投票宣誓書の申請記載欄を。

答 近隣の市町を調査の上、参議院選挙を見据えて検討します。

問 選挙時の投票事務を町内から一般公募しては。

答 今後、検討していきます。

問 商業施設誘致のため、地主（一井工業）と借主（トリアル）との借地料の差額を町が負担する理由は。

答 町が差額を負担してでも、商業施設の誘致が町民の利益になると考えたためです。

今後、商工会、雇用、農産物の問題等も町として丁寧に対応していきます。

問 飼い主のない猫の不妊・去勢手術補助金の内容は。

答 メス1匹につき1万円、オス1匹につき5000円です。

問 防災行政無線の戸別受信機の購入台数は。

答 1000台を予定しています。難聴地域や防災組織等に貸し出す予定です。

問 町立病院の外来患者減少の原因は。

答 生活習慣病、肝臓病関係の患者や遠方からの患者が、直方病院、額田病院などへ転院されたためです。

問 無料定額診療と町立病院への送迎バスの導入は。

答 どちらも、小竹医師会

との関係もあり、町立病院として単独で導入することは難しい状況です。

補正予算委員会の主な質疑

問 今橋・尾勝線道路新設工事負担金の減額理由は。

答 工事の進捗状況により、平成25年度に予算計上しています。

問 庄内川改修工事負担金の減額理由は。

答 県が用地買収等に不測の日数を要し、繰越事業になったためです。

問 南小学校大規模改修工事の内容は。

答 屋根・床・外壁の改修及び教室の窓枠（鉄製）の塗り替えです。

トイレは全面改修して、児童数に合わせて、全体の3分の2程度とし、一部を洋式化します。身体障がい者用を1階に設置する予定です。

問 子宮頸がんワクチン予算が400万円程度残っているが、接種人員と広報の方法は。

答 予算は、3回接種で、延べ300人を見込んでいましたが、被接種者は33人で、延べ98人です。

啓発方法は、個人に直接通知しています。国の予防接種法が改正になればインターネットでも対応していきます。学校では、保健の授業等で啓発していきます。

問 固定資産税の減額理由は。

答 当初の過大見積りによるものと、福岡スプリットン工業が民事再生法開始決定後に倒産したことによる未収です。

平成24年度補正予算

一般会計 …… 1億6,035万円

特別会計 …… 3,285万円

総 額 …… 1億9,320万円

可決

3月定例会の主な議案

3月定例会は、3月7日から3月22日まで、会期16日間の日程で開かれました。
条例案・予算案等の議案が提出され、審議の結果、賛成多数で可決しました。

特別職の退職手当

区分	改正前 (千円)	改正後 (千円)	減額率 (%)	差引額 (千円)
町 長	11,412	10,652	△6.6	△760
副町長	5,897	5,460	△7.4	△437
教育長	5,002	4,377	△12.5	△625

一般職の退職手当

年度	24	25	26	27
調整率(%)	1.04	0.98	0.92	0.87

※退職手当の計算式：給料月額×勤続年数率×調整率

**特別職・一般職
の退職手当を減額**

平成25年1月1日から国家公務員の退職手当が引き下げられたことで、本町においても国に準じて、特別職及び一般職の退職手当を平成25年4月1日から減額するものです。なお、一般職については、経過措置として3年度間で段階的に減額されます。改正の内容は、次のとおりです。

基金条例を制定

新たに、4つの基金条例が制定されました。
名称及び設置目的は、次のとおりです。

●小竹町災害対策基金

福岡県市町村災害共済基金組合の解散による返還金の一部を原資として、本町の災害発生時の応急対策及び復旧対策に充てるものです。

●小竹町施設整備等基金

国の「地域の元氣臨時交付金」の一部を原資として、本町の公共施設の整備や維持管理に充てるものです。

●小竹町定住促進住宅基金

定住促進住宅の施設の安全性と機能性を維持する経費に充てるものです。

●小竹町米麦共同乾燥調製施設基金

指定管理者からの利用料を原資とし、施設の改修費用に充てるものです。

**町長の施政所信表明
に対する質疑**

問 地方公務員給与の減額分は交付税で減額されるのか。

答 地方6団体の中で、国と交渉する姿勢ですが、国は交付税減額を前提としています。

問 6次産業化の農業者に対する支援策は。

答 町としては、若手の農業経営者との懇談会を進めながら、農業者からの提案も聞きたいと思っています。

互いに十分話し合い、関係団体とも協議の上、行政の支援のあり方を検討します。

問 有害鳥獣対策は。

答 食肉のブランド化の研究を進めますが、町単独では困難なので、現在、実施されている共同事業への参画を検討していきます。



▲イノシシ侵入防止柵

問 中学校の完全給食実施は。
答 教育委員会に実施に向け指示していますが、平成26年度以降になると思います。

問 障がい者虐待防止センターの内容は。

答 24時間体制の相談窓口で、直方市の社会福祉協議会の中にある相談支援センター「るーぷる」です。

問 平成25年度まで延長予定の住宅リフォーム制度に関する予算が計上されていないのは何故か。

答 6月の補正予算で対応したいと考えています。

問 町営住宅の今後の考え方は。
答 基本的に建替えの方向で検討していきたいと思っています。

問 小竹駅西口の開発は。

答 隣接する倒産企業の用地買収も含め、昨年度と状況も変化しているので、庁舎問題、工コタウン化の問題、企業との調整、商業施設の雇用問題などを含め、西口開発を進め、定住促進を図りたいと考えています。

そこが知りたい 一般質問



○小さくても輝く まちづくり

吉野 欽也 議員

本町は、小さな町だからこそ、町民の皆さんの生活に身近であり、小回りの利く施策に取り組み、住民サービスの充実と質を高め、町民満足度の向上を図ることができる。

① 「まちづくり基本条例」

まちづくりの基本は、この町に住む住民が自ら考え、意見を持ち行動することであり、そのため、町民の皆さんへ町に関する様々な情報を提供し、説明する必要がある。

小竹町が目指す姿やそれを達成する基本理念である行政サイドの「自治基本条例」と、議会の「議会基本条例」を一本化した「まちづくり基本条例」を、行政、住民、議会が一体となって策定すべきではないか。

② 「町民講座」の開設
役場職員が、町民の皆さんに、担当している業務の現状や課題を説明するとともに、その課題について議論する場となる「まちづくり町民講座」を開設すべきではないか。

③ 「小さくても輝く自治体フォーラムの会」
このフォーラムの会の目的は、住民を元気にし、地域経済の活性化を図ることや、きめ細かな行政実践など、特徴ある取り組みを内外にアピールすることである。

本町もこのフォーラムの会に参画し、町長や職員がまちづくりの研修・研鑽を重ねて、効果的かつ効果的な行政運営を行い、魅力あるまちづくりをすべきではないか。

松尾町長

① 「まちづくり基本条例」は、行政では「自治基本条例」といわれています。

条例の制定は早い時期にとは思いますが、まず、職員間及び職員と住民間のコンセンサスが必要であると考えます。当面は、地域と行政との懇談会などを開催し、その過程の中で、少しずつ基礎を固めていきたいと思います。

② 町民講座は、職員のスキルアップと住民の皆さんが行政に参画できる二つの大きな効果があります。

まちづくりは、行政の「情報公開」、「政策の透明化」、「説明責任」が重要なので、開設に向け検討したいと思います。

③ フォーラムの会については、道州制が安倍政権でいわれています。小規模自治体の存在が、いずれ大きな政治課題となってくると思います。

小規模自治体なくして国づくりはないと思います。

この自治体がお互いに手を取り合いながら、国づくりに貢献していくフォーラムを、ぜひ研究していきたいと思います。

○買い物支援バスを ○県道整備は



峯岡 均 議員

① 買い物支援バス

近々、スーパーの誘致が決まりそうだという朗報が入ってきた。

本町では、高齢化や過疎化が進み、社会情勢が大きく変化し、買い物弱者といわれる方が増加している。

社会福祉協議会の巡回バスやワゴン車などを活用し、事業者、社会福祉協議会、町が一体となって、きめ細やかな買い物支援バスの運行をすべきではないか。



▲改良が望まれる現地

② 県道整備

- ・庄内川の架橋整備
庄内川の架橋整備は、本町の防災・減災や地域振興に大きく寄与するもので、長年の懸案事項である。
- また、本町の東部地区住民の皆さんは、役場や小竹駅など公共施設への交通が便利となり、生活の向上と安定、地域産業の活性化が促進される。現在の進捗状況は。
- ・県道勝野・下境線踏切改良工事
県道勝野・下境線における平成筑豊鉄道が交差しているところは、踏切が閉鎖され、河川敷地内を通行している状況である。
- 地域住民は、不安を抱えて暮らしている。
- 町として、直方市と連携し、福岡県や平成筑豊鉄道など関係機関へ強く要請すべきではないか。

松尾町長

① 買い物支援は、社会福祉協議会の巡回バスとワゴン車で対応しています。

しかし、買い物支援としてのワゴン車の貸し出しは、平成24年度から実施ということもあり、利用者が少ない状況です。

今後、町民の方が使いやすい、利用しやすい運営方法を検討していきます。

② 県道の整備

・庄内川の架橋整備は、東部地域住民の小竹駅へのアクセスが便利になる。

遠賀川左岸堤防国道200号線が災害発生時に迂回路になる。

飯塚、直方を結ぶ幹線道路としての役割を果たすなどの利点があります。

ぜひ、実現させたいと思います。現在、飯塚市長と連名で県に要望書を提出しています。

・県道勝野・下境線の踏切改良工事は、以前、平面交差の時もあったと聞いています。過去の経緯を調査した上で、直方市とも協議し、平成筑豊鉄道、県にも要望を出していきたいと思っています。



○住民票等の交付に係る
本人通知制度の実施
○ピロリ菌検査の導入と
広報の徹底

大安 美佐代 議員

結婚や就職時の身元調査のためなどで、住民票や戸籍に関する交付を行政書士・司法書士・弁護士等が職権で取得したときは、本人に通知をする制度を設けては。

個人情報問題もありますので事前登録型の本人通知制度でもよいのでは。

しかし、男女ともに30歳までに除菌をすれば、ほぼ胃がんにならないそうです。

よって、中学生は身体検査時、がん検診を受けられる年齢の方はがん検診時、その他の方は町内の医療機関で検査を受けられるようにし、助成金も考えてはどうか。

また「ピロリ菌胃がんリスク判定」を導入すれば、X線検査に比べて身体的・経済的負担も少なく、バリウムを飲む検査より胃がんの受診率が向上します。

ぜひ、この検査を早い段階で導入すべきと思うが、町長の考えは。

今まで胃がんは生活習慣病といわれていましたが、1994年に世界保健機構の国際がん研究機関がピロリ菌は胃がんの因子であると認めています。

日本でも2011年2月に認められています。

今年の2月21日から、軽い胃炎等の場合も、ピロリ菌がいれば除菌治療に保険が適用となりました。

除菌には、2万円程かかりましたが、3割負担の人では6000円程度で済みます。

松尾町長 行政書士や弁護士が住民票等を不正に取得するなど、情報を商品化することは防止すべきだと考えています。

本人に通知することにより、抑止効果はあるのではないかと思いますので、近隣自治体の情報を調査しながら、検討していきます。

この問題は、国の法律の中で起きていることなので、国の法律により抑止していくのが正しい方法ではないかと思っています。

ピロリ菌検査は、健康診断などの自由診療になると、2万円から3万円という高額になってきます。

今後、国の動き、町の財源も含めて検討していきます。



昨年8月に「社会保障と税の一体改革法」が成立し、それに合わせて「社会保障制度改革推進法」が成立。その附則の中に生活保護制度の見直しが行われ、その内容として、「生活扶助・医療扶助」等の給付水準の適正化ということで生活保護基準が引き下げられようとしています。

生活保護制度は、人間が人間らしく生きるための最低生活を守る基盤として、社会保

○生活保護基準の見直し



宮野 一男 議員

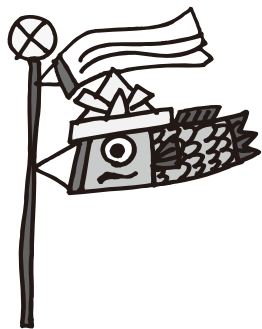
障制度の「要」となっているものです。

政府は、引き下げの理由のひとつに、一般低所得世帯と比較して、生活保護基準が高いことを上げていますが、その基準を引き下げれば、国民の最低生活を守る基盤の意味をなくし、国民の生活水準は際限なく引き下げられる可能性があります。

生活保護制度が、国民の最低生活を保障するものであれば、生活保護基準を引き下げるのでなく、それを下回るような、低所得世帯を出さない、作らないというのが政府のやるべき姿だと思います。

貧困世帯や低所得世帯を対象とする政策は、生活保護制度だけではありません。「最低賃金制度」や「就学援助制度」をはじめ多くの政策は、生活保護基準が一つの目安となっています。

生活保護基準を引き下げた場合、住民生活にどのような影響をもたらすのか。



松尾町長 生活保護基準が引き下げられますと、生活保護受給者だけの問題ではなく、低所得者に大きな影響を与えることになります。

個人住民税の非課税限度額が変わってきます。

平成25年度には、大きな影響は起きませんが、平成26年度以降必然的にさまざまな分野で影響が起きます。

直接影響を受ける制度としては、就学援助、保育料の免除、児童養護施設等の運営費などが考えられます。

国としても、他に影響が起きないように苦慮していると聞いています。

今後、行政サービスがどこまで低下するのか、そしてどこまでケアができるのか、時間をかけて検討していきま

す。

保護基準の見直しは今年の8月から聞いています。このことで、公共サービスが低下した場合に、町行政で負担できないかという問題は、極めて厳しい状況です。

基本的には、国の制度に従い、町として手立てができるものがあれば、今後、検討していきたいと思います。



○地下資源としての

地下水の利用は

○長寿健康の家の設置

広瀬 早美 議員

水道サービスの供給準備のため実水道使用料とは関係なく、準備料金という固定費が基本料金だけでなく使用料金にも含まれている。

大口使用者が使用料を減らした場合、一般の水道使用者から回収しなければならなくなる。供給量の見込み違いが、水道会計収支を圧迫する結果になっている。

地下水の大量利用による地盤沈下の恐れがある本町の実情の中で、地下水に関する条例がない。問題が起きる前に、他の自治体が設置しているような地下水に関する条例をつくるべきではないか。

直方市中泉地区に計画されている、管理型の産業廃棄物処分場の設置に係る説明会が行われているが、説明を聞けば聞くほど住民の不安が増している。

本町はそもそも、昭和60年に県が認めた産業廃棄者の不法投棄で、水道事業に1億円近い損害を被った経験があり、今回の問題で行政に対する怒りは頂点に達している。

町民が飲む水が汚染される恐れがある重大な問題に、本町として何ができるのか。

総合事業は、地域のコミュニティにより支えられていくことが求められている。

ふれあいサロンで、外出時に町のバスの使用が難しくなったと聞いたが、色々な人が特技を生かした関わり合いをもてる機会をつくる時ではないか。

地域包括支援センターや介護予防拠点施設として、「長寿健康の家」が今後どのように活用されるのか。

松尾町長

水道事業の給水収益は、水道水を使う企業が減少傾向にあるため、企業誘致等で利用を促進して供給と需用のバランスを図りたいと思います。

本町は成鉱の鉱害地で、地下水を汲めば地盤沈下を起こす懸念もありますが、それを防ぐため充填水を入れているので、現状では問題は無いと考えられます。

条例化は、本町の環境保全条例の改正も含め、検討していきます。

産廃処理の問題は、最終的に県が許可しますが、直方市など関係市町と連携し、意見書を提出したいと思います。

長寿健康の家は今年4月から開設します。地域包括支援センターと介護予防拠点施設として、高齢者の方に対する「総合相談・権利擁護・包括マネジメント」を提供し、適切な包括ケアを行います。

また、認知症サポーター養成講座等の介護予防事業を実施し、町民の皆さんに積極的に活用していただき、健康長寿「老い楽のまちづくり」を目指していきます。

自治功労者表彰を受賞

野田剛敏 議長



野田議長は、本町議会議長として11年以上の在職とその功績に対して、福岡県町村議会議長会から自治功労者表彰を受賞されました。

議会が同意した人事

監査委員（新任）

とよざきのりお
豊崎 能利雄 氏



住 所 小竹町大字勝野
三六七〇番地
(小竹区6組)
生年月日 昭和25年6月11日

意見書

◎ブラッドパッチ療法の保険適用
及び脳脊髄液減少症の診断・治療の推進を求める意見書

..... 可 決

編集後記

桜花爛漫の春がまたたく間に過ぎて、若葉が輝く季節となり、生命の躍動に心が洗われる思いです。

さて、平成25年度の予算には希望あふれる町の建設のために、大型スーパ一の誘致・町民体育祭の開催・小竹駅西口開発などの予算が計上されています。

駅前の開発で活気あふれる小竹町の誕生となれば本当に

嬉しい限りです。

65歳を超える人が3割以上となった我が町で、どのようにすれば幸せな人生を送っていけるのか、また、若者も共に住み暮らしやすい町にするためには、常に考えながら、議員としての使命が果たせるよう努力を重ねていきます。

(編集委員会委員長

大安美佐代)



次回の定例会は、

6月6日(木) 開会予定です。

※事情により変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。